

2022年6月1日

デジタル化に向けた取り組み状況に向けて  
**アンケート調査結果報告**

(公社)鹿児島県栄養士会  
病院協議会

# 目的

これからのさまざまな情報はデジタル化され、個人の医療・介護・健康情報も PHR(Personal Health Record)として管理されていくとされている。

その中で栄養管理部門は、適切な栄養診断情報の提供が求められるため、NCP(Nutrition Care Process)に準じた運用が必須となる。栄養管理に係る管理栄養士・栄養士は、その技術を習得する必要がある、実施については職場環境の整備も欠かせない。

今回、鹿児島県の医療機関100施設を対象に 現状調査を行ったので 報告する。

# 方法

1, 日時 2022年5月10日

2, 対象 (公社)鹿児島県栄養士会に属する医療機関(一部非会員)

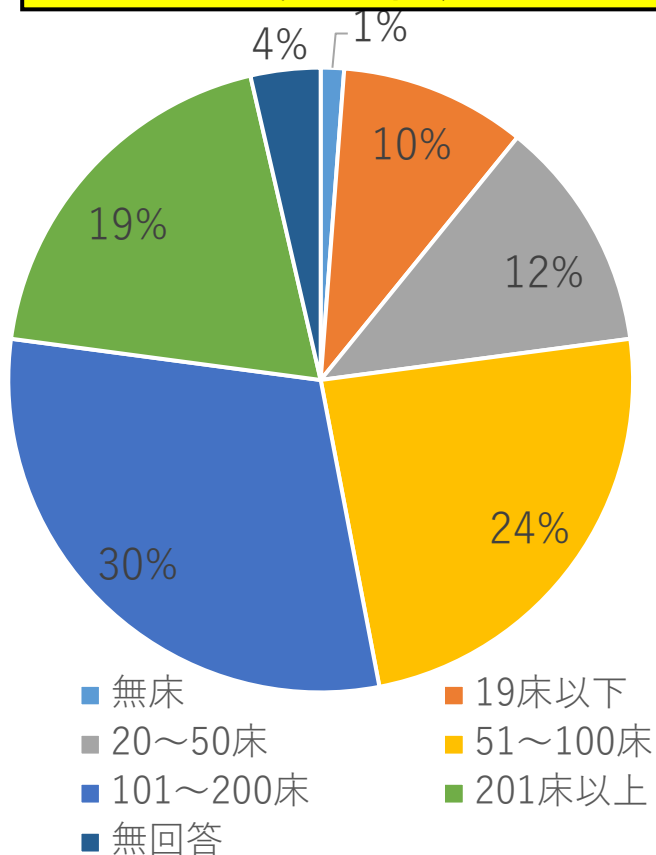
3, 調査項目

- ①病床数    ②管理栄養士数    ③管理栄養士一人当り患者数
- ④電子カルテの有無    ⑤栄養管理計画書の記載の有無
- ⑥専用のネット環境    ⑦NCPの理解    ⑧SOAPの記載
- ⑨PESの理解    ⑩栄養情報提供書の有無

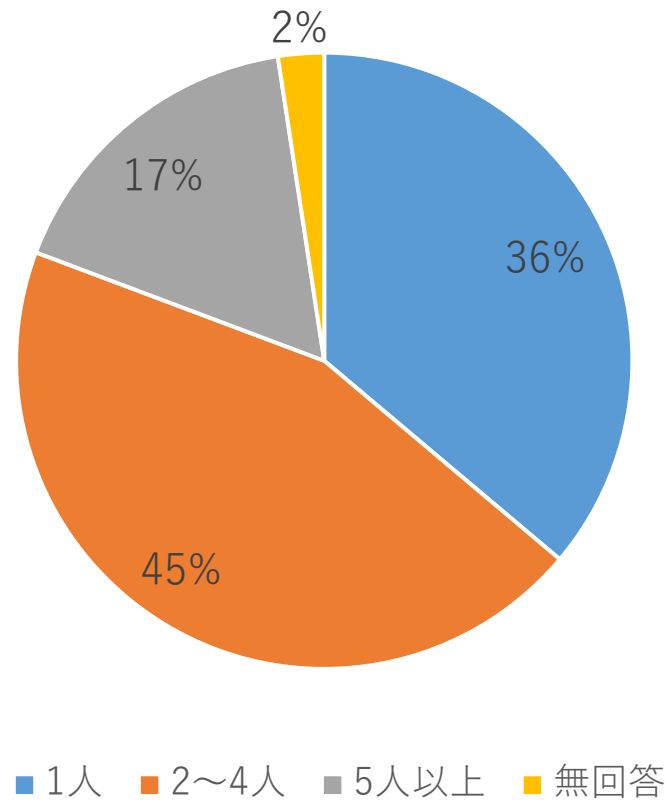
4, 回収率    83／100施設    83%

- 会員の属する医療機関の約80%は200床以下で 小・中規模病院が多い。  
(厚労省の対応は200床で線引きされる場合が多く、施設基準評価に対応できない施設が多い。)
- 50床以下の施設は約22%(うち19床以下10%)であるが、1人配置の施設は36%であり、複数化は進んでいない。
- 管理栄養士1人当たりの患者数は、50人以上が約42%である。

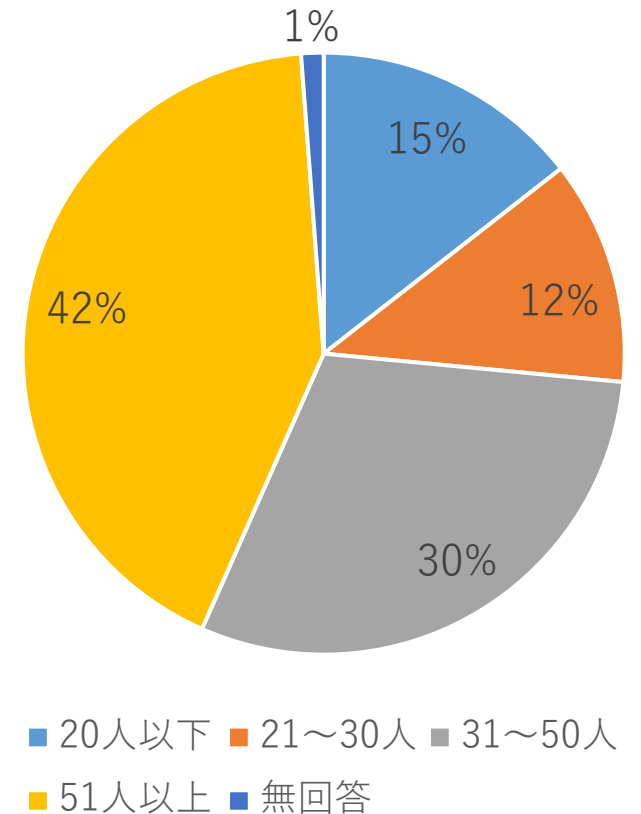
1, 病床数



2, 管理栄養士数

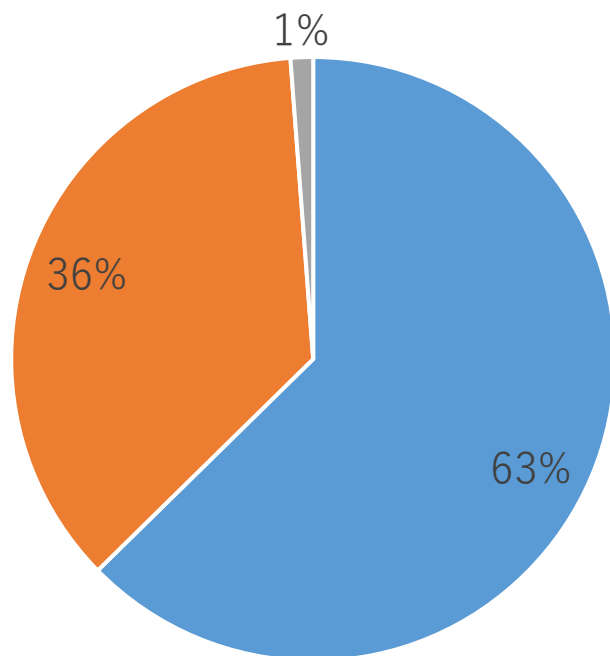


3, 管理栄養士1人当り患者数



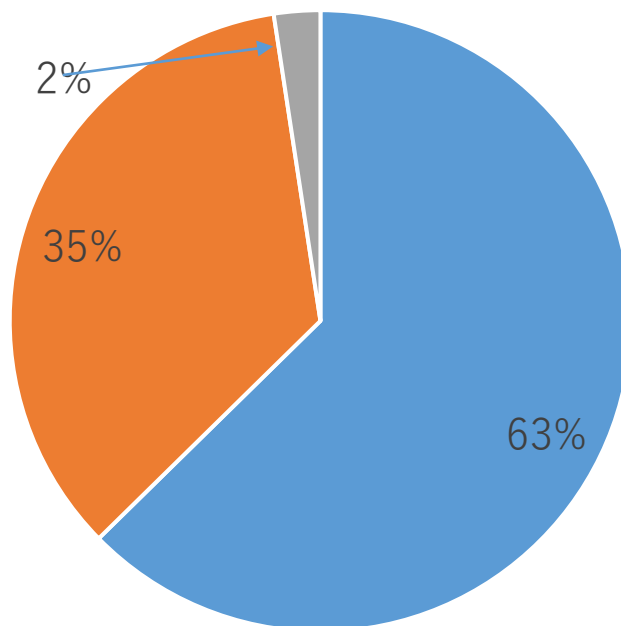
- 電子カルテの導入率は約63%である。
- 栄養管理計画書は、基本事項として入院基本料の中の必須事項となっており、電子カルテ導入施設は対応できている。
- 栄養士専用のネット環境は 70%となっている。  
(一部は個人スマートフォンを 利用しての対応とも考えられる。)

#### 4, 電子カルテの導入



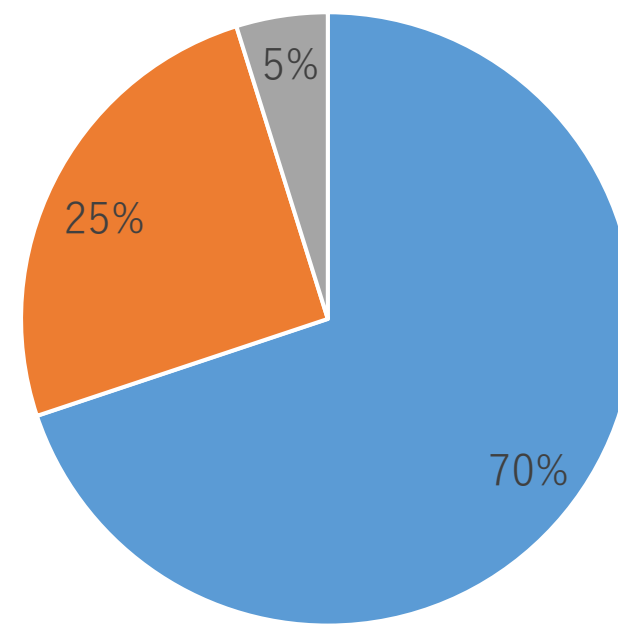
■ はい ■ いいえ ■ 無回答

#### 5, 電カルと栄養管理計画書の連動



■ はい ■ いいえ ■ 無回答

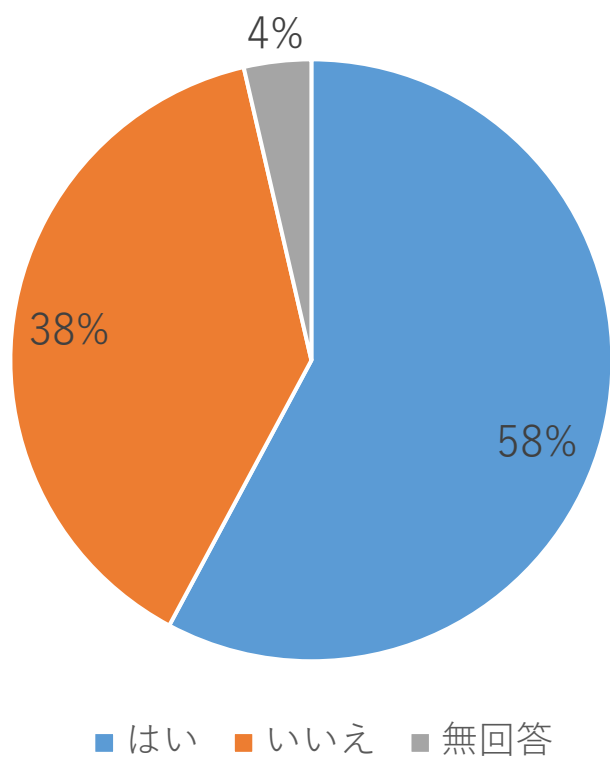
#### 6, ネット環境



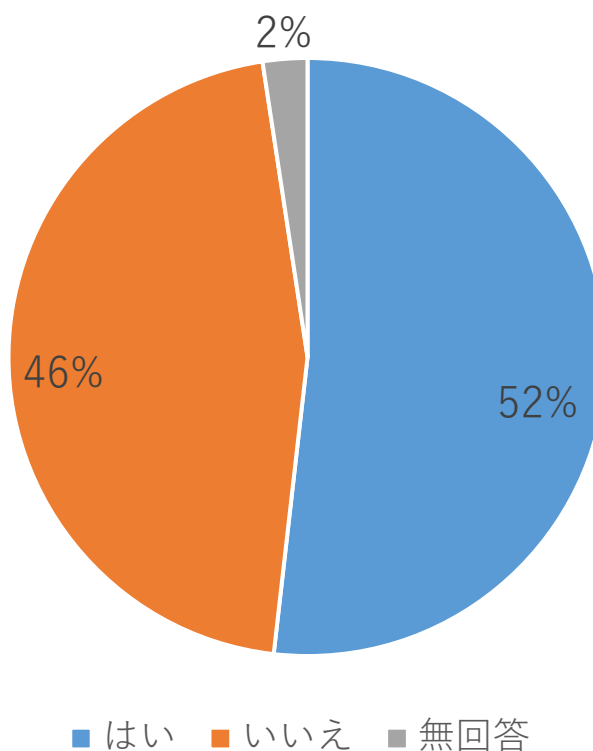
■ はい ■ いいえ ■ 無回答

- 30歳以下の若手管理栄養士は、ほとんど教育を受けてきているが、年齢構成による相違も検討する必要がある。
- SOAPによる記載は50%強にとどまっている。
- PES報告は90%近くが未実施である。

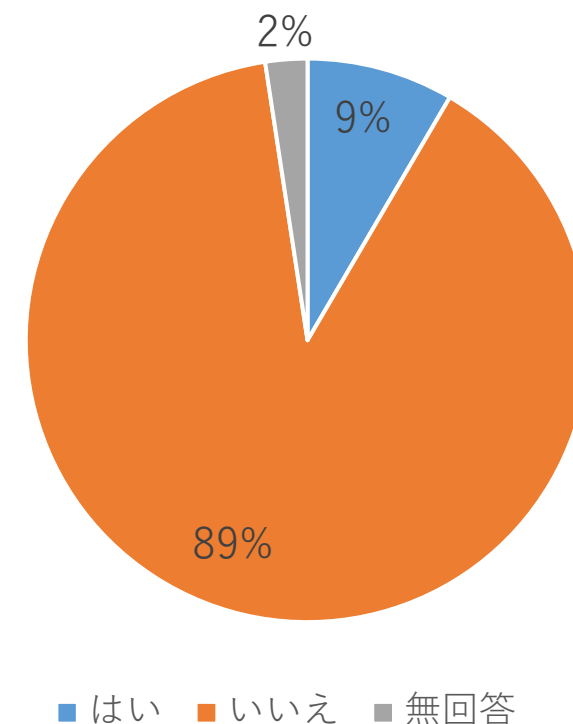
7, NCPの認知



8, SOAPによる記載

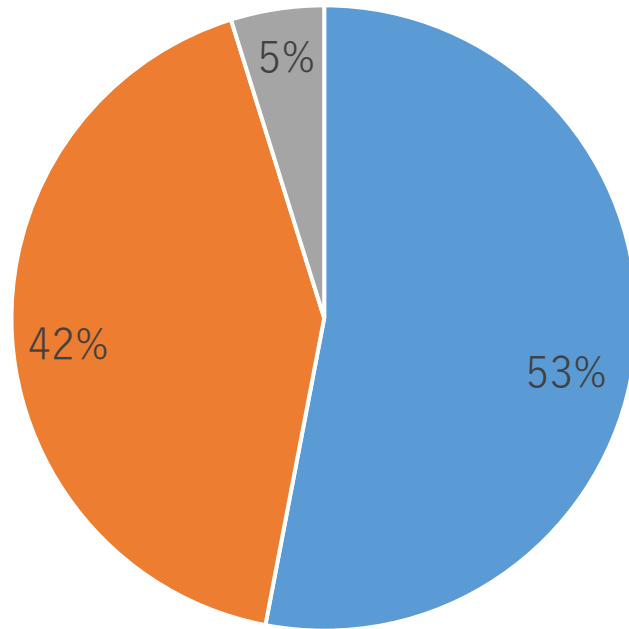


9, PES報告



●栄養情報提供書は、まだ十分に提供されていない。

## 10, 栄養情報提供書



■ はい ■ いいえ ■ 無回答

### 【考察】

医療機関のデジタル化は、電子カルテ導入により栄養管理業務もシステム化されていきつつあることが伺える。さらに医療・介護の共通言語の共有は喫緊の課題であり、NCPに準じた対応の標準化が必須である。

鹿児島県は小・中規模の医療機関が多いが、管理栄養士の複数配置も十分とは言えない。一人配置の施設や管理栄養士1人当たりに抱える患者数が50人を超える施設が半数以上ある現状の改善が求められる。多職種連携・医療・介護・在宅の連携が謳われる中、栄養情報提供書の活用が進まない理由も管理栄養士不足にあるとも言える。

本会は、合理的な業務の運用が望まれるなか、会員全てのNCP習得とともに、社会の期待に応えられるよう、その専門性を社会に反映できる積極的な活動に取り組んでいく必要がある。